

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 8 4	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Weekly alcohol consumption, brain atrophy, and white matter hyperintensities in a community-based sample aged 60 to 64 years. 1 週間の飲酒量と脳萎縮・白質強調画像について—60-64 歳地域住民を対象とした検討—	
執筆者	
Anstey KJ, Jorm AF, Replade-Meslin C, Maller J, Kumar R, von Sanden C, Windsor TD, Rodgers B, Wen W, Sachdev P.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Psychosom Med. 2006 Sep-Oct;68(5):778-85.	
キーワード	
飲酒、白質、灰白質、海馬、性差、脳梁	
要 旨	
目的： 1 週間の飲酒量と脳萎縮の関連を 60—64 歳の地域住民を対象に明らかにすること。	
方法： 地域在住の 385 人を対象に撮像された脳磁気共鳴画像 (MRI) を解析した。Automated segmentation 法、manual tracing 法を用いて脳内各部の容積を測定した。また automated 法を用いて白質強調画像の定量と部位特定を行った。視覚的皮質萎縮は健康、生活習慣指標として測定した。飲酒量は Alcohol Use Disorders Identification Test を用いて評価した。	
結果： 男性では 1 週間の飲酒量は脳室容量・灰白質と正の直線的な関連を、そして白質とは負の直線的な関連を示した。飲酒量は白質強調画像、脳梁の大きさ、海馬、扁桃体量とは関連していなかった。	
結論：飲酒量と脳萎縮の関連は地域住民レベルで明らかであった。少量飲酒が神経に防御的に働く可能性は依然あるものの、高レベルの飲酒が脳神経に有害であることが明らかとなった。	